

CHIHOMEN NEWS

OSAKA 地域プロモーション

定住促進映像・ポスターを自主制作 富田林TV (28万回再生)、市公式YouTubeで放映

ちほめん出演

みどりと暮らそう (金剛団地街)

ちほめんジュニア (家族) 出演

富田林市公式 YouTube ちほめん撮影・制作

いつでも緑が迎えてくれる

街に愛され 人を愛して

住民出演 (実際の移住者)

歴史と暮らそう (寺内町)

市の若手職員出演

寺内町

歴史と暮らそう

富田林市

みどりと暮らそう

ポスター (映像と連動)

金剛団地街

富田林テレビ1月号
近畿財務局 TEAMちほめん 黒木 悠平さん、谷口 貴哉さん
TEAMちほめんジュニア みゆちゃん

富田林テレビ (ネットTV) で映像を放映
⇒ 28万回の視聴数に至る

地方創生の核心。 地方の人口流出抑制に挑戦するプロジェクト。

CHIHOMEN NEWS

富田林市へは昨年度、関西国際空港での南河内インバウンドイベントを提案し、数千人の外国人旅行客へ対面でPRするなど、観光振興面で支援してきました。

今年度はさらにステップアップして、**地方創生の核心の課題である、地方から都心部への人口流出抑制に直接寄与する企画**として、地域定住促進プロジェクトを市と共同で立ち上げました。(同市では毎年1,000人超の人口減少が大きな課題)

各地域でも定住促進に向けて、補助金や子育て支援施設の拡充、写真をクローズアップしたポスターや、Instagramでの発信といった取組みが進められています。しかし、観光振興のフォトジェニックとは異なり、**定住促進という面では、どの地域も同じような策、絵になっており、今ひとつ差別化が難しい状況**にあります。

そこで本プロジェクトでは、「これは都心部や他の地域にはない、住んでみたくなる良さだ」と思う、いわば**“定住資産”**と呼べる市の**確実な魅力を掘り起こし、これをヴァーチャルに感じることが出来る映像を自分たちの手で作成し、市外や都心部へプロモーションを行うことで、移住・定住の意欲を訴求していくこと**としました。

ここ、素敵！！
こんな雰囲気
で子育てしたいな



定住資産

本プロジェクトの共同ディレクターである市の納氏との検討会を重ねる中、まず**住民の皆さんの考えを探るため、市にアンケートを活用いただくことが必要との判断に至り、その結果、市に住む魅力として「みどり(並木道)が多い」「歴史的な街並みが魅力」という2つの意見が多く占める状況が浮かび上がってきました。**

市民アンケート活用を提案

富田林市に住む魅力は何か？
～住民の“生の声”で**定住資産**を発掘～

- (回答)
- ・みどり(並木道)が多い
 - ・歴史的な街並みが魅力
 - ・子育て支援等の制度が充実

一方で定住資産は、**市の外に住むちほめんだからこそ、見えてくるものがあります。**
まずは**多くの住民の方が魅力を感じるみどりの多さ。**

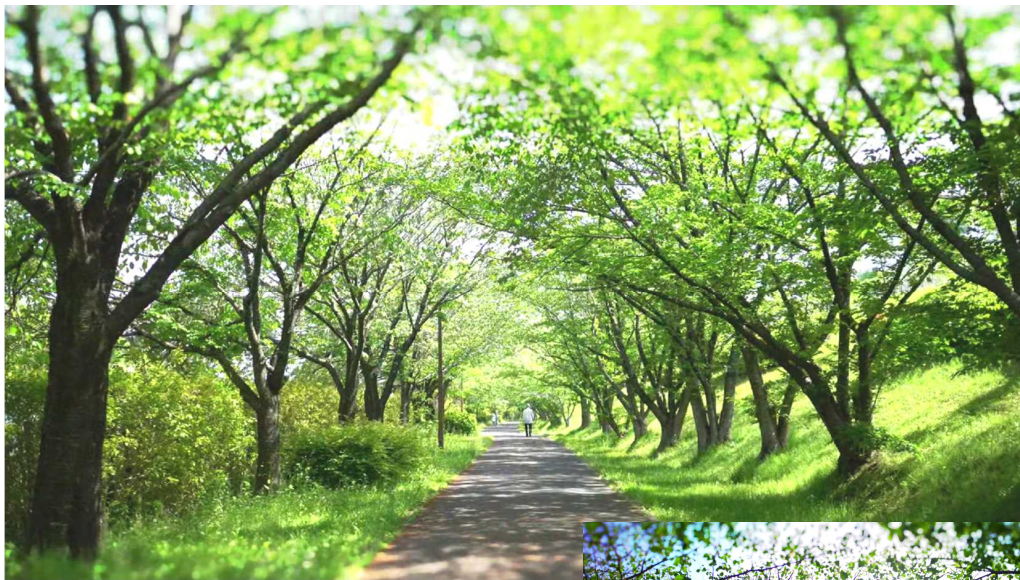
これを肌で実感するために、市内でも特に並木道が網の目のように張り巡らされている「金剛住宅街」を紹介してもらい、実際に納氏が育ったという、住宅街から学校までの道をたどったところ、ふと、とても愛らしい並木道のトンネルに出会いました。



市役所でプロジェクトを検討



何度でも現地に足を運び自分の感覚で考える



頭上を覆う並木から、こぼれる日差しに透けた新緑がキラキラと揺らめき、脳内に鮮烈な爽やかさを感じる印象で、メンバーからも「これは素敵」「ちょっと住宅街では見ない」といった声上がるほどでした。



「ここを毎日通えたら、きっと子どもも幸せだろうな」正直にそう感じた親心を、他の方も感じられるような映像。

一つ目の映像、“みどりと暮らそう”編は現地から得た感覚でテーマが決まりました。

自分たちの頭で地域を考える。
現地に学び、住民に学び、自らの手で撮影。

CHIHOMEN
NEWS

次にフィーチャーしたのは、閑空インバウンドイベントでもPRした寺内町です。

観光地として素敵な場所ですが、平日に訪れると一転、閑静な街並みに変貌。

混みあう休日には気づかなかった、青空と白壁の強烈なコントラストが印象的です。

歴史的景観に興味を持つメンバーは街並みに惚れ込み、何度もシャッターを押しつつ、展示館や宿、お店がメインではなく、住宅が多いことに感銘を受けていました。



映像に出演もしていただいた、寺内町の住民、箱田ご夫妻（2013年に同町に移住）に移住の決め手となった町の良さを伺うと、**大阪府で一番着物が似合う街と呼ばれるほど、歴史を感じられる街並みで、特に子供が着物で歩くと可愛い**とのこと。

住居兼店舗（服飾雑貨販売・着物着付けなどを行う大正紹漫）として、旧小田家屋敷に住んでおられますが、所在する四つ角は、**大正・明治・昭和初期の住宅が順番に並ぶ、町内でも貴重な場所で、時代の移り変わりを感じながら日々散策できる素晴らしさ**を教えてくださいました。

「歴史が刻む、時の流れとともに過ごす」

二つ目の映像、“歴史と暮らそう”編は、**住民の方から地域を学びながらテーマが決まりました。**



寺内町住民
箱田ご夫妻

移住意欲をかきたてる脚本。
住民・市職員・ちほめん・同ジュニアが出演。

CHIHOMEN
NEWS



高度成長期に造成された金剛団地街は、他の地域同様、**子どもが大学進学や就職を機に都心部へ移り住む状況**にあります。

そんな方々が帰省時に、お気に入りだった並木道のトンネルを歩き、どこまでも網の目のように伸びる道を楽しく冒険した子ども時代を思い出し、「やっぱり地元に住もうかな」と考えてもらう。

メンバーはそんなUターン意欲を訴求させるシナリオを策定しました。

これを具現化するために、まずメンバーの一人が春に金剛団地街に帰省した住民役を演じ、並木道や、同団地街の中でもひと際、新緑の大木が美しいとされる藤沢台公園を散策する様子を撮影。

そして後追いで、撮影クルーの子ども、本企画で新たに「ちほめんジュニア」に任命されたみゆちゃん（小3）が、主役の幼少時代を演じ、主役がタイムスリップして並木道や公園で遊ぶ構成で、“みどりと暮らそう”編が制作されました。



変わっては、“歴史と暮らそう”編。

木格子窓に伝統を感じる軒先にて、ご夫人の肩に、優しく手を載せて登場する箱田さん。

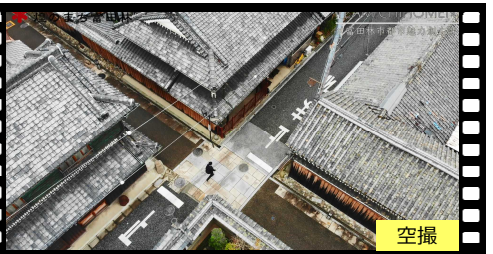
移住されてからの幸せを、視聴者も感じることができる笑顔です。

そんなご夫妻に着付けしてもらった子ども（ちほめんジュニア）が、大阪いち着物が似合う街角を歩いていく、まるで江戸時代の中で生活できるような日常を描いています。



街中に広がる、歴史の刻みとともに、ゆったりと流れる時間は、お寺の住職さんに見護られる安心感から宿っています。そこで地元浄谷寺の十石住職に出演いただき、厳しくも温かい眼差しで街を見護る映像をラストに入れています。

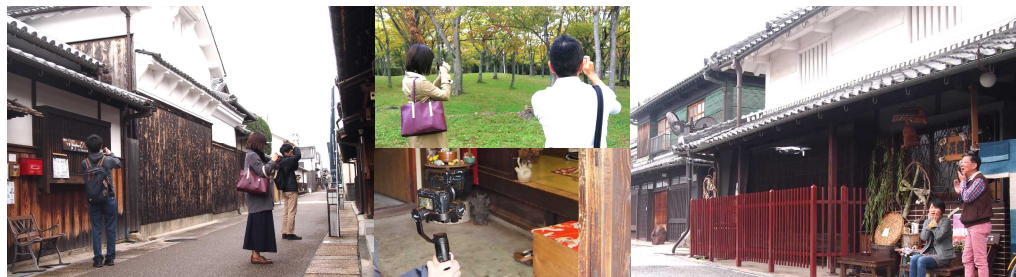
全般を通して、歴史的建築物の外観・内観からお寺の境内まで、住民・住職の清廉な暮らしとともに撮影することで、歴史が身近にある暮らしに興味をもっていただく構成としています。



自主制作だから、徹底できる。 メンバーのアイデアを地域への熱意で映像化。

空撮機材※を含め、一眼レフ・アクションカムといった様々な撮影機材（全てクルーの私物）を駆使し、ちほめんメンバーや市職員が発案したシナリオアイデアを映像化。「ヴァーチャルで散策」という映像制作のために、スタビライザー（水平安定機材）や空撮を多用し、常に移動しながら撮影するなど、随所に工夫を施しています。

※ 有検定資格者が国土交通省の飛行許可承認を受けて撮影（DID地区飛行・近接飛行等）



映像編集では、移住・定住意欲の訴求にあたり、他の映像にはない仕掛けとして、あえて演者のセリフやナレーションは入れず、視覚的に訴える詩的なイメージキャプション（字幕）を適用。（メンバー考案）

そして映像に見合う清らかな曲（フリー）をセレクトし、楽曲に合わせたカット編集を行い、4K60pの高画質で制作しました。

制作にあたっては、多数のメンバーによるフィールドワークの機会を設け、さらに春から秋まで個別に幾度も現地へ足を運んだほか、ちほめんに限らず、画像・映像に精通した職員の技術支援・助言を受けるなど、1年がかりで完成に至りました。



映像は市の公式YouTubeへ掲載。 ネットテレビに出演し、広く全国にプロモート。



映像はそのテーマや美しい景観に対して市から高い評価を頂き、嬉しいことに、市の公式YouTubeチャンネル“tondabayashicity”へのアップが決定しました。

常時視聴できるプラットフォームができたことで、一過性ではない、確かに長く地域に残る成果物への第一歩が開けました。

「市公式」という信頼性を獲得したところで、いよいよ具体的なプロモート。

YouTubは、同市への移住・定住など、確実に興味を持った方が「富田林市」というワードを検索して初めて視聴されるものです。

もちろん市公式チャンネルへの掲載で今回の映像への信頼性は高まりましたが、競合が多い中、YouTubeへの掲載だけでは発信効果は限定的です。

そこで同市の納さんとプロジェクトを練るうち、「富田林テレビ」へのちほめん出演による映像のプロモート策が最適との判断に至りました。



※ FRESH LIVEでの放送は、ちほめんが出演し映像をプロモーションした1月号まで。2月号以降現在は、OSAKA愛鑑というライブ配信サービスに変更されています。（毎月生放送は同じ）



富田林市ではインターネットテレビ番組である「富田林市テレビ（愛称：とんテレ）」を、FC大阪との包括連携協定に基づき放送しています。FRESH LIVE（1月放映当時。現在はOSAKA愛鑑※）というインターネットでのライブ配信サービスを利用して視聴するテレビ放送番組です。

毎月末の水曜日に生放送で配信され、生放送の後はいつでもアーカイブで繰り返し視聴ができ、さらに視聴回数が明示されることが特徴です。

出演は同市出身のちほめん、そしてちほめんジュニアのみゆちゃん。

MCは同市の納氏と早川氏。

放映に先駆け、FacebookやTwitterで、YouTubeの掲載案内と、テレビ放映の視聴を呼びかけていただきました。

またちほめ人は、視聴者が同市への移住・定住に興味をもつよう、ある程度のシナリオ台本を作成、演出しました。



特に、市の早川MCと、ちほめんジュニアとの掛け合いでは、視聴者が親目線になって、同市への定住資産への魅力に気づく端緒になる、戦略的なシナリオを策定（MCの質問等）したところです。

こうした努力と、他コーナーのゲストさん、そして市のMCお二人の盛り上げが功を奏し、ちほめんが出演した、1月号の視聴数は、28万回を超える人気ぶりとなりました。



⇒ 富田林テレビ： <https://meikan.osaka/municipality-live/tondabayashi-live/>

ちほめんの活動は市ホームページで紹介。テレビCMを追加作成・提供し、永続的に支援。



⇒ 富田林市H P（紹介ページ）： <https://www.city.tondabayashi.lg.jp/soshiki/5/25096.html>



[ホーム](#)
[ご利用ガイド](#)
[品サイトマップ](#)
[Foreign language](#)
[文字サイズ](#)
[拡大](#)
[縮小](#)
[お問い合わせ](#)
[日本語](#)

[くらし・手続き](#)
[子育て・教育](#)
[健康・福祉](#)
[しごと・産業](#)
[市政情報](#)
[安心安全ガイド](#)

[魅力発信 観光ポータルサイト](#)

2018年度の取り組み

定住プロモーション動画の自主制作

2017年度は「観光」を主なテーマとして取り組んだところですが、2018年度は「移住・定住」をテーマに取り組みました。

数回の会議を重ねたうえで、今回は富田林市の魅力を発信し、移住・定住をPRする映像を自主制作しました。

大阪の中心部から電車で約30分圏内という利便性と、たくさんの歴史・みどりに囲まれた生活が共存する富田林市へ、あなたもぜひ移住・定住を検討してみませんか？

TEAMちほめんは、1年を通して数十回にわたり富田林市にて撮影を行い、最後の編集まで作り上げていただきました。

動画は、富田林市公式Youtubeチャンネル「tondabayashicity」にて、2019年1月25日より公開しています。

皆さま、ぜひご覧ください。

「歴史と暮らそう 富田林市」定住プロモーション<外部リンク>

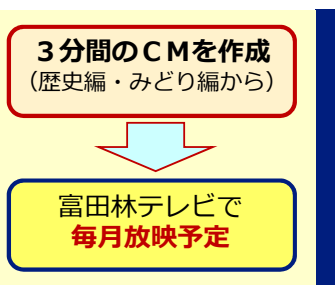



「みどりと暮らそう 富田林市」定住プロモーション<外部リンク>

これだけホームページで紹介頂いたら、私たちも当然お返しをしていく必要があります。

富田林テレビは4コーナーで回されており、各コーナーの間に3分間のCMが流れています。

そこで、**今般、映像を編集してCMを作成・提供し、2月号から放映されています。**



複数年に渡り、地域の若手職員の方々とともに地域の未来を考え、悩み、補助金に頼らない形で、若手主体のちほめんだからこそできる、地域の課題解決のお手伝い。

そんな、地域の方としっかりとカタチに残る“絆”を築かせていただくプロジェクトが、昨年度の関空インバウンドプロモートに次ぐ、今回の地域定住促進プロジェクトでした。

本プロジェクトは、**共同ディレクターの富田林市納氏、TVMCの同市早川氏、映像に出演・助言いただいた箱田ご夫妻、十石住職のご協力なくしては成立しませんでした。**

雨の中での空撮、幾度も撮り直しが続いた十石住職へお詫びすることがありました。

その時十石住職から、「いいんです。何度も足を運んでもらって、綺麗な映像を撮ってもらって。これで一人でも二人でも、寺内町へ移住を考えてくれたらホンマ幸せです」とかけていただいた言葉が、今でも胸に残ります。



本当に皆さま、ありがとうございました。

「地域定住促進プロジェクト」

Cast 箱田ご夫妻（大正紹漫）・十石住職（浄谷寺）
 中川・黒木・谷口・みゆちゃん（ちほめんジュニア）
 Clue 多田・西村・井ノ本・田坂・皆木・石井・一丸
 Project Director 西津 Co-Director 納氏（富田林市）

あなたの地域でも地方創生に関するご要望がございましたら下記の宛先までお問い合わせください。

近畿財務局・総務課企画係
 06-6949-6390
 kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp